

反畑 誠一(たんばた・せいいち)先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、開講オリエンテーションのページに記載

《講義概要》

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、後期の中間総括として、2001～2011年のレコード産業の変遷について講義を行った。講義では、「デジタル」「ネット」「コンテンツ」をキーワードに、技術革新とともに大きく変化し続けている音楽産業の歩みと今後の展望について様々な視点から解説した。

まず、市場最高のレコード売上を記録した1998年を振り返りながら、音楽配信サービスや韓流ブームの変遷、そして「再販売価格維持制度」や「還流防止措置法」について分かりやすく説明し、学生に幅広い見識を示した。また、若年層が減少している日本の人口構成のグラフを提示し、「大人の音楽市場」のような「マーケティング力や企画力による新たな市場の開拓」、時代のニーズに合った発信の仕方が重要なポイントであると言及した。さらに、デジタル技術の発達とともに、益々深刻化する違法配信やダウンロード問題の実態と、著作権法改正等の様々な対策について解説した。

最後には、デジタル時代の今後の可能性について言及し、「音楽産業の未来について浪漫を持って考えてほしい」「大容量のデータ保存が可能となった今、どのような音楽を入れればもっと音楽を楽しむことができるのか考えてほしい」と学生にメッセージを残した。



《受講生の感想》

●前半の総括として今までの講義を振り返りながら、さらにレコード産業の知識を深めることができた。私たちがよく耳にする「ヒット」した曲には、ヒットする理由があり、曲の中に様々な工夫を凝らしていることがよく分かった。音楽の価値は本当に高いということを再認識することができた。音楽の価値を守るための著作権はやはり音楽について考える上で、一番大切にしなればいけないと思った。後半の講義も興味のある内容ばかりなので自分の知識をさらに深めていけるよう積極的に自分からコミュニケーションをとっていきいたいと思った。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●今日の中間総括の中で感じたのは、私たちは技術をどのように利用していくべきかが重要だということである。著作権や違法ダウンロードも今や他人事ではない。私たちは十分に他人の権利を侵害する可能性を持っている。また、誰にでもクリエイターとしての可能性を秘めている現在のネット社会では、同時に著作権者にもなりうる。今後の動向を見極めつつ、残りの講義もゲストスピーカーの方々のお話を深く掘り下げていきたいと思う。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●アーティストは様々な戦略を使って売り出しているということを改めて感じました。そして今では当たり前であるレコードを貸すということも色々な意見を乗り越えて実現されたものであることも分かりました。昔と今では音楽ビジネスは大きく変化し、私たちにとってより身近な便利なものになってきていることを感じました。それと同時に違法に使われてしまうサイトなども出てきていることが事実であるため、それらを防ぐことがこれからの課題となってくると思います。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●ここ数年でも音楽を取り巻く環境が大きく変化しているのだということが分かりました。自分の生活を振り返ってみても技術の発達によって音楽はさらに身近な娯楽になったと感じました。著作権の問題なども発生してくるのですが、気軽に多くのアーティストの音楽を聴ける環境をどのように運用していくかが重要になってくるのではないかと思います。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●音楽というコンテンツを取り巻く状況というのは、社会の変化やデジタル化によって、大きく変化してきたということが改めて分かりました。特に iTunes や YouTube 等の動画サイトといったデジタル・ネット技術の影響は非常に大きいと感じます。しかし、それと同時に権利の問題も出てきたということも分かります。違法ダウンロードや著作権法といったトピックは、これからも変化が目まぐるしいと思うため注目していきたいです。

立命館大学・映像学部・3 回生

●今は産業の面から見るととても厳しい時代だと思う。しかしネット特有の新しいコンテンツやライブなど新しい楽しみも浮かび上がっていることも確かである。受け手である私は権利なども考えた上でそれらを楽しむということが重要なのではないかと考えた。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●これまであまり著作権というのは考えたことがありませんでしたが、この授業を受けて違法配信、ダウンロードの存在を再認識し、自分自身も気を付けていかなければならないと思いました。権利の問題を考えると便利さは怖いものであると分かりました。様々な権利問題がある現代だからこそ、メディアと音楽の関係性について考えるべきであると思います。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●2001 年から 2011 年までの 10 年間の音楽産業における歴史を振り返ることで急激な進化を改めて実感することができました。新たな技術が次々と開発され、音楽の楽しみ方も変化してきていますが、この先どのような技術が生まれ、どのように変化していくのか興味深いです。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●スマートフォンの普及に伴い、音楽コンテンツの配信方法や利用客の変化や著作権法などの広範囲の目線で現在の音楽業界についてのお話を聞くことができ、とても興味深かったです。またそのように広い視野から音楽業界について観察することで、これからの音楽業界の移行についても考えさせられる講義でした。

立命館大学・映像学部・2 回生